



2012年 8月11日(土) 読売新聞

## 燃料電池の仕組み学ぶ 二酸化炭素出さないエネルギー

環境(かんきょう)に優(やさ)しいエネルギーについて学ぶ中学生対象のイベントが、JX日鉱日石(にっこうにっせき)エネルギーの中央技術(ぎしゅつ)研究所(横浜市中区)で7月下旬(しゅうごん)に行われました。子どもたちに仕事のやりかたを伝える活動をする団体(だんたい)「フューチャー イノベーション フォーラム」が主催(しゅざい)し、約20人が参加しました。

JX日鉱日石エネルギーは、石油以外にも様々なエネルギーを研究しており、この日は主に燃料(ねんりょう)電池について説明してくれました。

まず、簡単(かんたん)な燃料電池を組み立てながら、水素(すいそ)と酸素(さんそ)を化学反応(はんのう)させて電気をつくる仕組みを学びました。排出(はしゅつ)されるのは水で、二酸化炭素(たんそ)が出ない点(てん)が特徴(とくちょう)です。



研究者に手伝ってもらいながら燃料電池を組み立てるジュニア記者(右から2人目)

実用化されている家庭用燃料電池を見せてもらいました。都市ガスなどから取り出す水素と、空気中の酸素を使って発電し、家庭電力の一部を賄(まか)えます。発電時に発生する熱で湯を沸(わ)かすこともできるそうです。

実証(じっしょう)実験中の燃料電池自動車に試乗しました。ガソリン車との違(ちが)いは、排ガスではなく水が出ること。普及(ふきゅう)までには、水素を供給(きょうきゅう)する施設(しせつ)の整備(せいび)や、費用の削減(さくげん)などの課題(かたい)があり、研究が続けられています。

このほか石油を精製(せいせい)する様子や、自動車用の燃料やオイルを開発する施設の見学なども行われました。

20代の研究者の方々の話も聞きました。岩崎俊之(いわさきとしゆき)さん(26)は、中学生の頃(ころ)、新聞の天気図を見て天気を予想することが好きだったそうです。図書館で気象関係の棚(たな)を眺(なが)りめぐっているうちに地球温暖化(おんだんか)の本に出会い、環境問題に興味(きょうみ)を持ったといいます。

岩崎さんは「この経験が今の仕事につながっていると思う。何か心に触(ふ)れることがあれば大切にしてください」と話していました。

〈ヨミウリ・ジュニア・プレス取材班(しゅざいはん) = 中1・小黑夏子(おぐろなつこ)、中2・飛弾洋佑(ひだようすけ)、高2・佐々木凌(ささきりょう) 記者〉

作成日: 2012年9月13日